

建て主の家族全員が参加した「コラージュ」設計の家づくり



2階の居間。真ん中にある白い壁がらせん階段部。ここを中心に各部屋が、床レベルを変えながら、らせん状に連なる。右側の子供部屋も居間より床が高い

大きな紙の上に、自分の好きなイラストや写真を切り貼りして、お気に入りの絵をつくる。この「コラージュ」と呼ばれる絵を、建て主の家族全員に制作してもらうことで設計者が建て主のライフスタイルを知り、設計に反映させていく。そんな試みを行って出来たのが、東京都世田谷区にあるSさんの家だ。今年1月に竣工した。

家のちょうど真ん中に、らせん階段があり、その階段室が筒となって、屋根を突き抜けて伸びる。その周りを、各部屋が床レベルを変えながらスパイラル状に連続する。デザインコンセプトは「成長するツリー」。イメージでは階段部が「幹」、部屋が「葉」という設定だ。上に向かって部屋が連なることで家族の「成長」を表す。例えば、この「スパ

イラル」や「ツリー」という重要なキーワードが、建て主が制作したコラージュ(150ページを参照)から導き出された。設計を担当した連健夫氏(連健夫建築研究室主宰)は、コラージュ制作を設計プロセスに取り入れ始めてからS邸が2件目。その彼がコラージュの意味について次のように話す。「コラージュを使った心理学的な療法

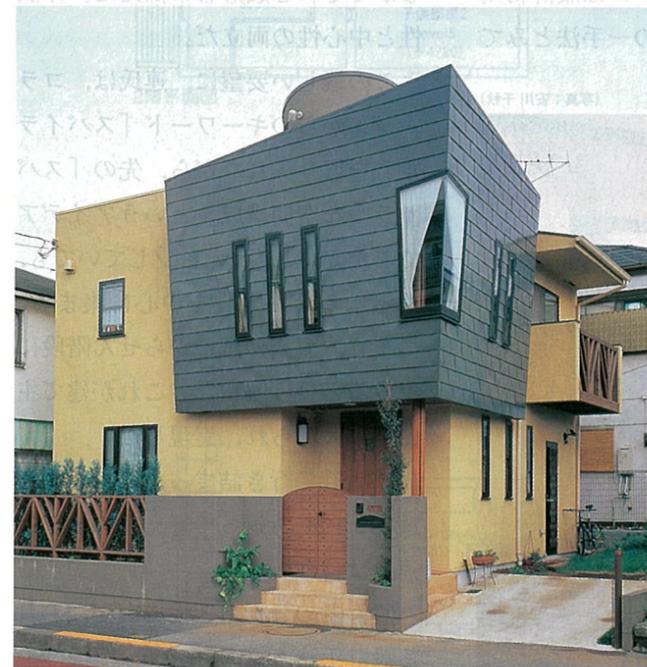
(写真: 安川千秋)



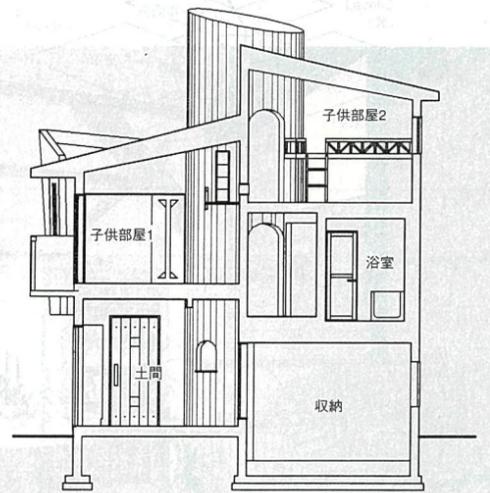
居間にある階段室の窓から、回り階段室を通して子供部屋(長女の部屋)を見る。この部屋が家で一番高い位置にある



らせん階段の上部はガラスを使ったトップライト。この雰囲気は、長女のコラージュから設計者が感じとったキーワード「木漏れ日」と「空」をイメージしている



外壁はモルタル下地ジョリパット仕上げと、フッ素樹脂鋼板一文字葺き



断面図(1/150)

●コラージュ療法*をヒントにして連氏が考案した設計の流れ

①コラージュのつくり方

S邸で設定したコラージュのテーマは「理想の家」。制作してもらう絵は、雑誌にある好きな絵やイラストなどを切り取って貼るだけと簡単。子供でも楽しめる制作方法だ。結果として抽象的な絵になるが、その方がキーワードを感じとりやすいという。

※コラージュ療法。ユング派心理学者には、無意識にある何かを意識化することが創造性と位置付け、この創造力を使って、心の病を治そうとする考え方がある。その一手法としてコラージュ療法がある。

②コラージュの制作



家族4人みんながコラージュを制作する

(150~151ページの写真：特記以外は連健夫建築研究室)

があり、私はそれを建築設計で生かそうと考えた。建て主の好みや原風景、要望をコラージュから感じとり、設計の手がかりにする。

制作してもらうコラージュは、具体的な家や部屋の絵や写真をそのまま貼るのではなく、好きな雑誌などから、気に入った風景写真やイラスト

トを自由に組み合わせて切り貼りしたものだ。「その方が、建て主自身の自然な好みを感じとりやすい」と連氏は言う。例えば、木漏れ日の風景写真を見て、「木漏れ日」というキーワードを抽出する。

あくまでもコラージュは設計初期におけるヒアリングの一手法とみて

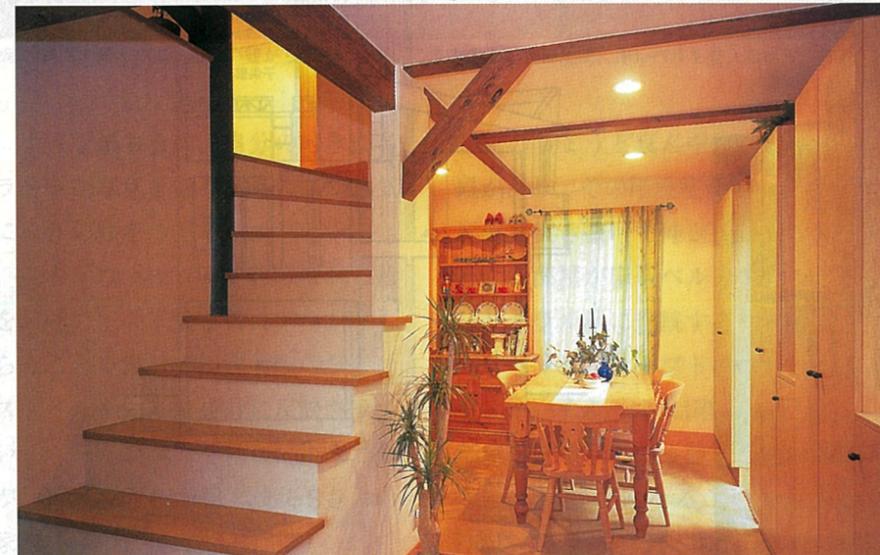
いい。具体的な空間構成は建て主と綿密に話し合いながら練り上げる。

S邸の場合、部屋の配置の仕方は難題だったところだ。Sさんは、家族一人ひとりが自立性と連帯性とともに感じる空間を望み、話し合いのなかでそれを設計者に伝えた。分散性と中心性の両立だ。

この難しい要望に、連氏は、コラージュからのキーワード「スパイラル」を取り入れながら、先の「スパイラルな空間構成」というアイデアでこたえた。個々、独立していても、部屋はらせん階段を中心に集まる。つまり、家族の意識がらせん階段に集まるという解釈だ。これが建て主に受け入れられ、実現した。

「設計で行き詰まったとき、コラージュに立ち返って答えを探す」と連氏は言う。

設計者の分析力と構成員力が問われる設計手法と言える。(増田 剛)



1階の玄関と土間。左にあるのがらせん階段だ

③デザインキーワードの抽出

下に並べた文字が、設計者である連氏がコラージュから感じとったキーワード。「どこまでキーワードを読みとれるかは人それぞれだが、経験を積めば、読み取り力は深くなる」と連氏は言う。

父親：セピア、青い空、青い海、濃く、自然、場の分離、バランス、円と放射、スパイラル

母親：花びら、夕日、セピアオレンジ、組石、石、隙間、連続性、自然、海辺、グラデーション、ヨーロピアン

長女：青と黄色、深緑、木漏れ日、楽しさ、鳥とさえずり、中心性と放射、動物、木

長男：入れ物、包み込む、迷路、楽しさ、立体的、装置、方向性、矢印

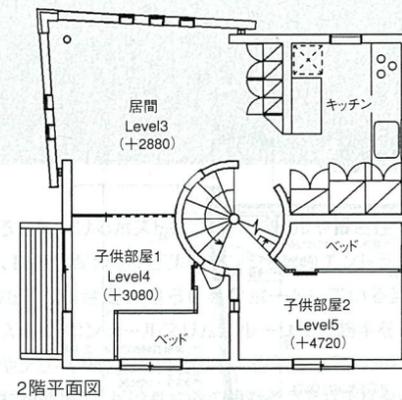
④概念モデルの制作



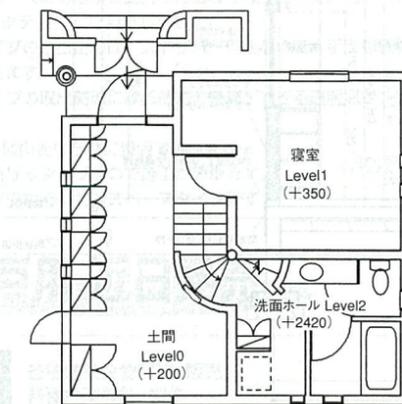
話し合いの結果も踏まえて、デザインコンセプトは「成長するツリー」に。その概念モデル（上写真）を制作する。中央の円筒が幹（階段）、周りの四角い板が葉（部屋）だ

右上：模型を使って現地で設計内容をチェックする
右：模型を使って軸組みを確認した

⑤設計内容の確認

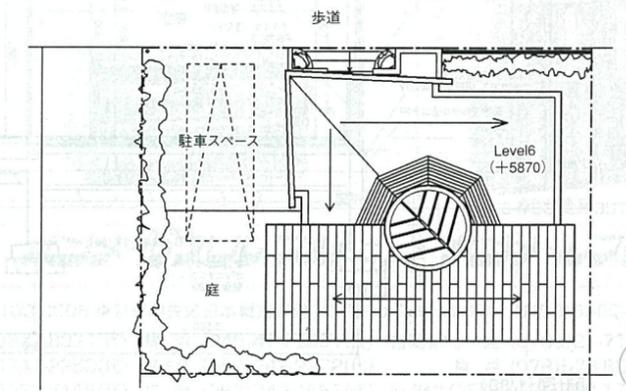
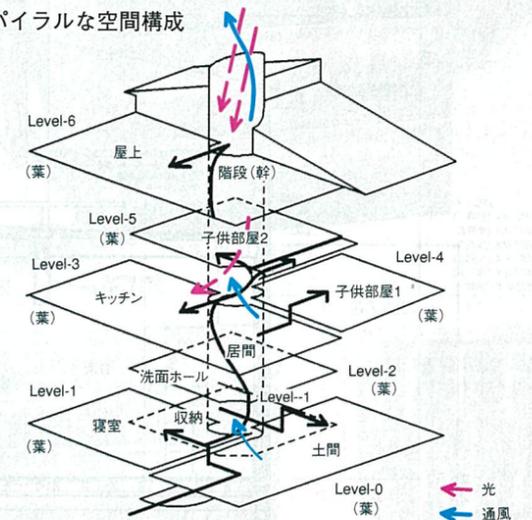


2階平面図



1階平面図 (1/150)

●スパイラルな空間構成



配置図 (1/200)

●建て主の評価

Sさんの家族にコラージュを使った設計プロセスの感想を聞くと、親子ともども「楽しかった」と話す。らせん階段を取り入れた空間構成についてもおおむね好評だ。そのうえで、建て主家族の一人（母親）が、コラージュによる設計手法について次のように評価してくれた。

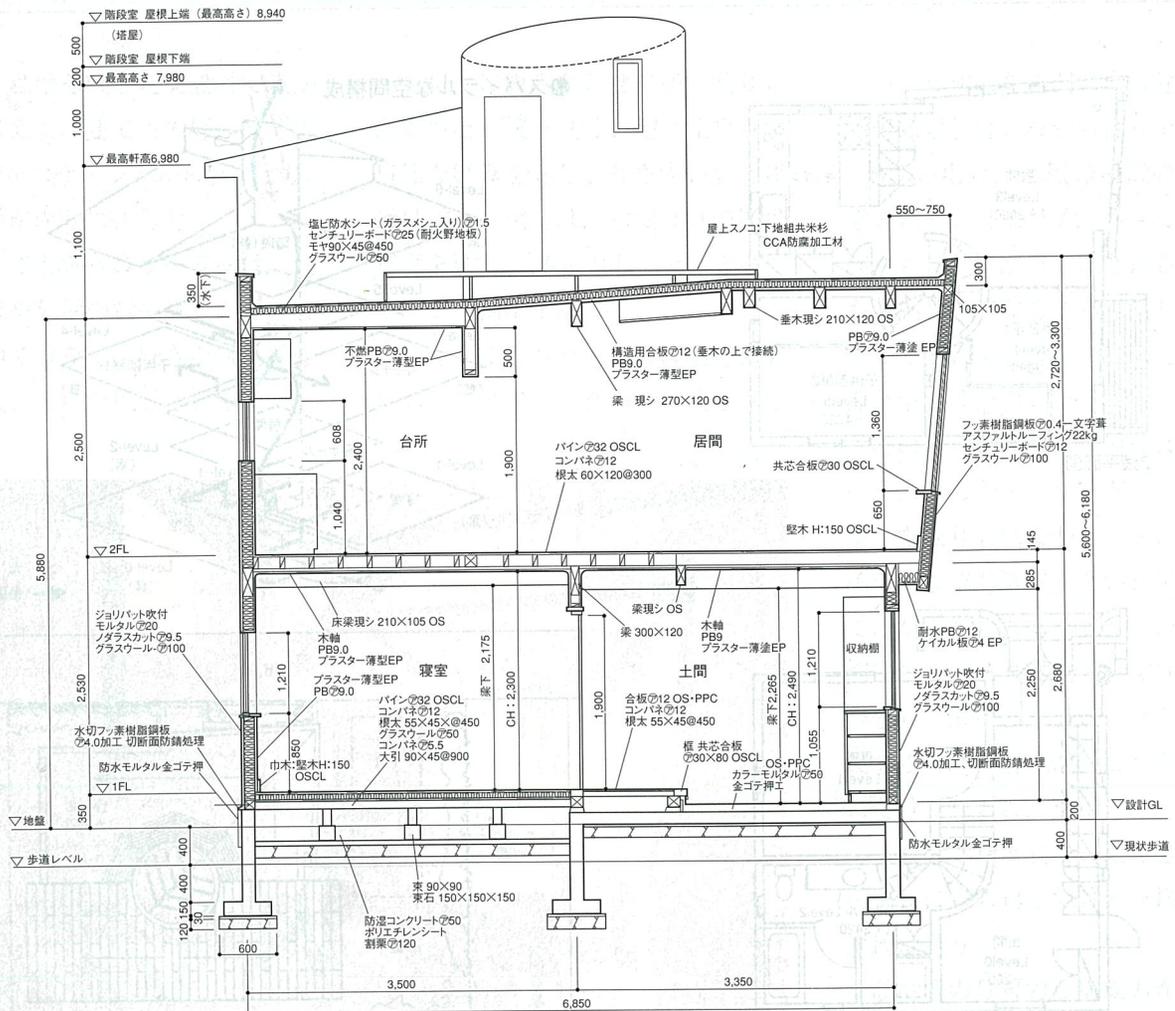
「私は家族4人みんなで表現したものを一つつくっておきたいという思いがあったので、今回の家づくりはそのいい機会でした。そういう意味で、コラージュを使った設計は、子供たちも含めて家族みんなが参加

できる良い方法だったと思います」。

「ただ、コラージュから何を感じとるのは家族以外の設計者になってしまうのは正直、つらい面がありました。本来ならば、私たち自身が何かを感じとって、形にしないといけないのにそれができない。建築の設計は専門的な知識や判断が必要なため、具体的な形の表現となると設計者にまかせざるをえない部分が多い。またコストの制約で、表現の仕方もすごく縛られてしまう……。とにかく設計内容にどこまで納得して妥協できるかが大切になります。設計者と綿密に話し合いをする必要がありますね」。

建築概要

名称	S邸～ツリーハウス～
所在地	東京都世田谷区
家族構成	夫婦、子供2人
地域・地区	第1種低層住居専用地域
	建ぺい率49.95%（許容50%）
	容積率95.1%（許容100%）
前面道路	幅員11.2m
駐車台数	1台
敷地面積	96.18m ²
建築面積	48.04m ²
延べ面積	91.45m ²
各階面積	1階：42.96m ² 、2階：47.55m ² 、塔屋：0.94m ²
構造・階数	木造・2階
基礎	布基礎、一部ベタ基礎
高さ	最高高さ7.98m、軒高6.98m
設計者	建築・構造：連健夫建築研究室（担当：連健夫）、設備：島津充宏
監理者	連健夫建築研究室（担当：連健夫）
施工者	くらし建設（担当：尾崎邦雄）
施工期間	1998年8月～99年1月



矩計図 (1/80)